

東京学芸大学
先端教育人材育成推進機構
外国人児童生徒教育推進ユニット

東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構

外国人児童生徒教育
推進ユニット



2025年度 シンポジウム

外国人児童生徒等教育を担う 教育者・支援者の育成

— 『多様性の包摂』の実現に向けて—

2026年1月31日 13:00-17:00

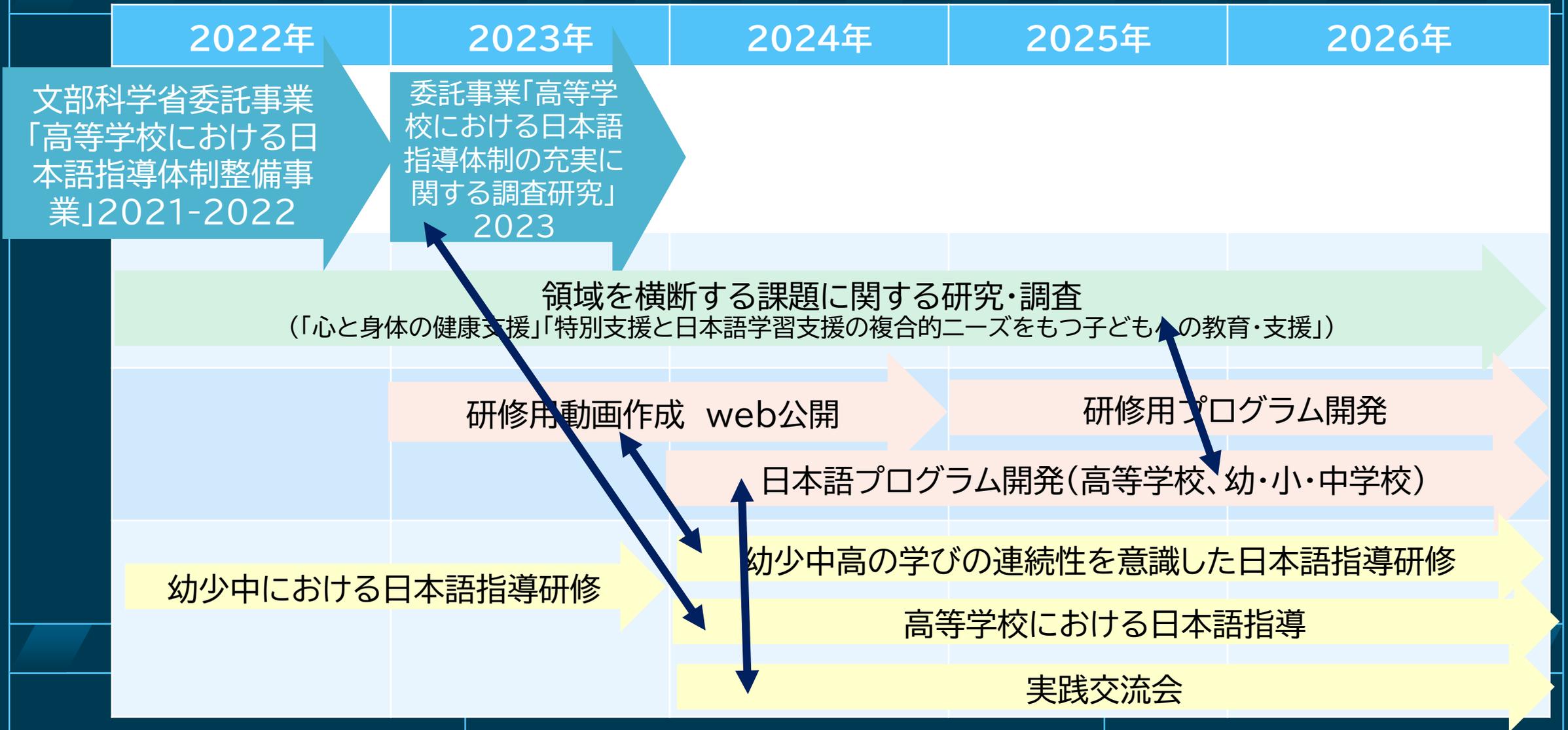
本資料の利用について

教育・研修を目的とした利用に限ります。資料としてご利用を希望する場合は、コンテンツの出典として「利用する資料等の作成者・執筆者」「利用する資料等が作成・公開された事業名」「コンテンツが示されているウェブサイトのURL」を明記して利用してください。部分的な切り取りや加工をして利用することは禁じます。

第1部 本ユニット事業報告 13:00-14:00

- 1 本ユニットの事業概要 齋藤ひろみ（東京学芸大学）
- 2 研修事業「多様性が生きることばの教育2025」
 - 1) オンライン研修
幼・小・中・高の学びの連続性を保障することばの教育
谷啓子・米本和弘（東京学芸大学）
多様な言語的文化的背景をもつ高校生のための学習環境づくり
小西円（東京学芸大学）・市瀬智紀（宮城教育大学）
 - 2) 実践交流会 河野俊之（横浜国立大学）・原瑞穂（東京学芸大学）
- 3 研究調査事業
外国人児童生徒等のウェルビーイングに向けた心身の健康課題と
その教育・支援に関する調査研究 見世千賀子（東京学芸大学）

年度別事業計画



本ユニット事業報告 概要

齋藤ひろみ（東京学芸大学）

<目的>

子どもたちの文化間移動は活発化し、学校等の教育機関では外国人児童生徒等の教育が重視されるようになりました。学校には、新たな言語・文化との出会いを豊かさに転換し、この子どもたちの学びを保障するために、多様性と包摂性の実現が求められています。わたしたちは、学びの連続性、学び手としてのエイジェンシー、社会的存在としての自己実現、自律的な生涯学習者、社会構造・価値観の見直しをキーワードとし、教育の公正性を議論します。また、実践的課題の解決に向けて、外国人児童生徒等教育・支援に携わる皆さん（教育者）と共に学ぶ場を創ります。そのために以下の事業を行います。（本ユニットウェブサイトより）

<事業>

- 1 調査・研究：外国人児童生徒等の教育・支援を巡る諸問題に関する調査・研究を行います。また、関連情報を収集し提供します。
- 2 開発：外国人児童生徒等教育・日本語教育の充実に向け、教育内容・方法の検討と開発、研修プログラムの開発等を行います。
- 3 研修：外国人児童生徒等教育・日本語指導の担当教師・支援者、学校管理職、指導主事を対象に研修を実施します。
- 4 事業受託：文部科学省等の事業を受託し実施します。

令和3～4年度 文部科学省委託「高等学校における日本語指導体制整備事業」

令和5年度 文部科学省委託「高等学校における日本語指導体制の充実に関する調査研究

2025年度事業

1 調査・研究事業

「外国人児童生徒等のウェルビーイングに向けた心身の健康課題とその教育・支援に関する調査」

2 開発事業

(1) 日本語プログラム開発

高等学校部会 外国人生徒教育における目指す生徒像の検討
生活のための日本語・技能別日本語プログラム 活動案作成

小中学校部会 トピック、技能・タスク型プログラムのシラバス開発
活動（ユニット）案の作成・公開

(2) 研修用プログラム開発 … 本ユニット実施研修のプログラム化

3 研修事業「多様性が生きることばの教育」

(1) 多様な言語的文化的背景をもつ高校生のための学習環境づくり オンライン3回（6・7・8月）

(2) 幼少中高の学びの連続性を保障することばの教育 オンライン3回（6・7・8月）

(3) 実践交流会「多様性が生きることばの教育実践」 10月（東京／名古屋） 11月（神戸）